安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

供給者の会社名称

住所

担当部門電話番号

FAX番号

製造者の会社名称

住所

担当部門 電話番号 FAX番号 パントレ (ウォーターベース エマルション)

好川産業株式会社

大阪市西区南堀江1丁目19-5 営業本部 マーケティング部

06-6538-3951 06-6531-7729 株式会社ソーラー

兵庫県神戸市中央区布引町2丁目1番7号

技術開発部 0790-49-2366 0790-49-1588

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

健康有害性

引火性液体 区分外

急性毒性(吸入:蒸気)区分4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2

皮膚感作性 区分1

環境有害性 水生環境有害性(急性)区分外

水生環境有害性(長期間) 区分外

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類で

きない。

GHSラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報 警告

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H319 強い眼刺激 H332 吸入すると有害

注意書き 安全対策

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)

取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

(P302+P352)

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい

姿勢で休息させること。(P304+P340)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

特別な処置が必要である。(P321)

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当

てを受けること。(P333+P313)

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けるこ

と。(P337+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯するこ

と。(P362+P364)

廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃

棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

皮膚に付着した場合

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	UASH 5
SDS3法対象成分は含ま					
ない(注1)					

4. 応急措置

吸入した場合蒸気・ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、

空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受ける。

呼吸困難または呼吸が停止しているときは、直ちに人工

呼吸を行い、速やかに医師の手当てを受ける。

汚染された作業服、靴等は速やかに脱ぐ。

多量の水と石鹸で洗う。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合には医

師の診断を受ける。

眼に入った場合 直ちに清浄な流水で15分間以上洗眼し、医師の診断を

受ける。

洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球とまぶたのすみずみにまで水がよくいきわたるように洗浄する。 コンタクトレンズ着用の場合は、容易であれば外して洗

浄する。

飲み込んだ場合水で口をすすぐ。

無理に吐かせてはいけない。

被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはなら

ない。

直ちに医師の手当てを受ける。

応急措置をする者の保護 適切な保護具を着用する。(8.暴露防止及び保護措置の

項を参照)

5. 火災時の措置

消火剤 火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使

田する。

周辺火災に適した消火剤を使用すること。

特有の消火方法 指定の消火剤を使用する。

消火活動は風上から行う。

可燃性のものを周囲から素早く取り除く。 周囲の設備などに散水して冷却する。

消火を行う者の保護適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

回収が終わるまで充分な換気を行う。

保護具及び緊急時措置

作業の際には適切な保護具を着用する。(8.ばく露防止

及び保護措置の項を参照)関係者以外は近づけない。

環境に対する注意事項 漏出した物質が下水や排水溝へ流出、また地下へ浸透

することを防止する。

封じ込め及び浄化の方法 砂・布などに吸収させて密閉できる容器に回収する。

及び機材

二次災害の防止策 付着物・廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をする。

7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策 取扱い

を行い、保護具を着用する。

取扱いの終了の都度、容器を密閉する。 安全取扱注意事項

取扱う前に、本SDSの安全注意を読み理解する。 取扱い後には身体、顔、手、眼等をよく洗う。

保管 安全な保管条件 容器を密閉する。

直射日光を避け、換気の良い場所(冷暗所等)に

保管する。

凍結させないように保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

保護具 呼吸器の保護具 送気マスク又は有機ガス用防毒マスクを着用する。

手の保護具 不浸透性の保護手袋(耐溶剤用)を着用する。 眼の保護具 保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型等)を

着用する。

皮膚及び身体の保

護具

不浸透性の作業着、長靴、前掛け等(耐溶剤用)を

着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観 形状 液体(粘稠液)

> 色. 乳黄色 約10.5 引火点なし 約1.00

10. 安定性及び反応性

化学的安定性 通常の取扱い条件においては安定である。 危険有害反応可能性 空気中でベンズアルデヒドへ分解生成。

避けるべき条件 情報なし。

11. 有害性情報

рΗ

引火点 比重(密度)

急性毒性 吸入 混合物の急性毒性推定値が2500ppmを超え、2

0000ppm以下のため急性毒性(吸入:蒸気)-区

分4とした。

眼に対する重篤な損傷性

又は眼刺激性 刺激性-区分2の濃度合計が10%以上のため眼

に対する重篤な損傷性又は眼刺激性-区分2とし

混合物の成分の眼に対する重篤な損傷性又は眼

皮膚感作性 混合物の成分の皮膚感作性-区分1の濃度が

1%以上のため皮膚感作性-区分1とした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性) 混合物のLC50(96h)が100mg/Lを超えているため、

水生環境有害性(急性)には該当しない。

水生環境有害性(長期

混合物のLC50(96h)が100mg/Lを超えているため、 間) 水生環境有害性(長期間)には該当しない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の

基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処 理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っ

ている場合にはそこに委託して処理する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規なら 汚染容器及び包装 びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行

う。

空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した

後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情報 該当しない

Marine Pollutant Not applicable Not applicable Transport in bulk

according to **MARPOL**

73/78,Annex II,and

the IBC code. 航空規制情報 該当しない

国内規制 陸上規制 消防法、道路法等の規定に従う。

海上規制情報 該当しない 海洋汚染物質 非該当 非該当 MARPOL 73/78 附

属書II 及びIBC コー ドによるばら積み輸 送される液体物質

航空規制情報

該当しない

特別の安全対策 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。

運搬に際しては、容器の漏れのないことを確かめ、 転倒・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れの

防止を確実に行う。

緊急時応急措置指針番号

なし

15. 適用法令

消防法 非危険物 化学物質排出把握管理 該当しない

促進法(PRTR法)

名称等を通知すべき危険物及び有害物に該当しない 労働安全衛生法

毒物及び劇物取締法 該当しない

16. その他の情報

日本ケミカルデータベース株式会社 データベース 参考文献

使用原料SDS

その他 本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに

基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される 事があります。また、情報の正確さ、完全性を保証する

ものではありません。

注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特 殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご

利用ください。

成分情報及び適用法令の詳細につきましては、弊社営

業へ別途お問い合わせください。

(注1)SDS3法とは、化学物質排出把握管理促進法(P RTR法)、労働安全衛生法(第57条の2)、毒物及び劇

物取締法を指します。

変更点 「8. ばく露防止及び保護措置」に変更があります